

## 武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会 第 1 回委員会における主な意見

※本資料は第 1 回委員会の発言内容から、主な意見を論点ごとに抜粋整理したもの。

### ■コミュニティの範囲、エリア設定

- ・ コミュニティ構想の地区割りと、コミセンの地区割り、地域で活動する各団体の地区割りの整合性が取れば、市民の地域感覚が形成されると考える。
- ・ 運営委員の中で複数の学校区にまたがる協議会では運営が難しいという意見があったため、協議会のエリア設定について議論できれば良い。

### ■コミュニティ協議会の役割

- ・ 協議会は、自主参加で自分たちで運営できるということが十分理解されることが重要である。本検討委員会では協議会の意義と役割を、市民に理解していただくことも含めて、改めて定義したほうが良いと考える。
- ・ 協議会に期待することではなく、幅広くコミュニティに求めていることを検討したうえで、広く市民や各団体の役割分担や連携の在り方について考えていきたい。
- ・ 地域に数多くの団体があるが、連携が取れていない。地域の団体をまとめる役割を果たすことが大事だと思う。

### ■コミュニティ協議会の組織形態・運営形態

- ・ 協議会に利用団体が関与していない場合もあり、くわえて利用者懇談会の設置がなく、しかも協議会の内容や設置意図が理解されていないため、利用者が意見を出すルートがなくなってしまったという問題があると思われる。
- ・ 地域を代表するコミュニティ協議会なら、地域の団体が参加することが自然であるのだが、これも自主三原則のなかで、そうした組織構成を必須とすることはできなかったため、地域の代表制をコミセンに明確に保持させることは難しかったのではないかと。それが、結果的に、好きな人が好きにやっているの、そのような組織には関わりたくないという誤解を招いた。
- ・ この検討委員会の中では、協議会が市民の代表組織であることを理解してもらえるためには、どのような組織形態がよいかについて検討し、提言していければ良いのではないかと思う。
- ・ もっと運営委員に多くの人に関与するためには、ワンコインボランティアという有償ボランティアの活用なども必要ではないか。
- ・ どういう形で地域の人々の参画を促しながら一緒にコミュニティ活動を行うかというのが今後の大きな課題であると考えている。

### ■コミュニティ協議会の周知

- ・ 協議会と地域の間で大きなギャップがあるように思う。協議会も地域の中で喧嘩までしながら地域のことを考えているのに、それが地域に理解されていないし、地域は地域でがんばっているのに何とかならないのかという矛先が協議会に向けられていると感じる。
- ・ コミセンの中身がより身近なものになっていけば良い。教育の中に取り組むことも方法として考えられるのではないか。
- ・ コミセンに関わっている人たちが一生懸命であることが市民の方に理解されていないのが原点としてある。市全体で共有して、情報発信する必要があると思う。
- ・ 武蔵野市が自主三原則に基づいてコミュニティづくりをしてきた伝統ある都市であるということを市が広報してこなかったのではないか。おそらく、自主三原則といわれている中で、市がそうしたことを広報すること自体も問題であるという躊躇があったのではないか。

### ■自主三原則（市の関与）について

- ・ 自主三原則とは本来どのようなものであったのかということから考え直しながら、行政が全く関与しないこれまでのやり方ではうまく機能していない部分もあることをふまえて、あらためてコミュニティの位置づけや課題等について議論し、これからの地域コミュニティのありかたを考える必要がある。
- ・ 市もコミセンや協議会に予算をつけている以上、一定の関与が必要ではないか。自主三原則を重視することはもちろん重要であるが、自由さばかりが目につく点もあり、バランスが必要である。